

# プリント教材の工夫と実践

## ―イスラーム世界―

県立秦野南が丘高校 小林 克 史

### 一 はじめに

社会科は教師の個性を活かしたさまざまな授業スタイルが可能です。プリントなど使わずとも、チョーク一本で異世界へいざなう、特異な能力をお持ちの先生もいれば、最近ではパソコンを利用して、コンピュータ・ルームで動画を取り混ぜた授業を展開できる先生もいらっしやいます。それぞれの特殊技能を活かした授業が良いのももちろんですが、なかなか幅広い分野を網羅することはできませんし、授業スタイルも得意不得意があります。その点、プリントは使い勝手がよく、(使わない、内容だけもらうという選択も含めて)自分のスタイルに合わせて利用することが可能です。できれば自分でつくるより、受け取る側でいたかったのですが、もらうために、たまには提供しなければということで発表させていただきました。これからもよりよい授業のためにプリントの交換、ネタの交換、ご教示その他、よろしく願います。

### 二 プリント内容「イスラーム世界」(抄)

以下の内容は解説編です。( )のなかにある文章は解説です。なお、写真は著作権保護のためここには掲載しませんが、ほとんど第一学習社『ダイアログ世界史図表』から利用しました。

### イスラームの教え

※六信五行

・六信

・五行

①信仰告白「アッラーの他に神はなく、ムハンマドは神の使徒なり」(ラー・イラーハ・イツラッラー ムハンマドン・ラスールッラー)口に出して言うことが大切。(イスラームに改宗するときは、二人以上の証人の前でこの言葉を唱えればOK。「コーラン」は強制による改宗は禁じている。一神教であることと、ムハンマドも人間にすぎないことを表している。)

②礼拝 毎日五回、聖地(メッカ)に向かって。金曜日ほとくにモスク(礼拝所)で集団礼拝をすることが望ましい。お祈りのための絨毯を持ち歩く人もいる。(礼拝の回数は地域によって異なることもある。ものすごく熱心という印象を受けるが、毎朝線香をあげたりするのと外見上はかわらないのではないか。)

③断食(「ヒジュラ暦」(イスラーム暦)へ太陰暦)のラマダーン月(九月)の一ヶ月間、日中は飲食を断つ。(一年が三五四日で毎年一日ずつずれるので、ラマダーン月が冬にあたれば比較的楽だが夏にあたると非常に大変。ただし、夜は食べても良いので、逆に太ることもあるらしい。夜はお祭り騒ぎで、親族を訪問したりして、交流を深める。同じ苦しみを味わうため、連帯意識が強まると言われる。断食ができて一人前という感覚もあるようだ。旅人や病人、妊婦はしなくても良い。最近の金持ちには、ラマダーン期間中になると旅行をする人がいるらしい。仏教でも修行として断食を行う。)

④喜捨 貧者に施しをする。『コーラン』では孤児や旅人にやさしくするように繰り返されている。善行を積むと天国へいけると信じられている。貧者への施しという発想は、仏教やキリスト教など多くの宗教に認められるが、イスラームでは義務のひとつとして強調されている。

⑤巡礼 一生に一度は聖地（「メッカ」）に巡礼する。もちろん余裕がなければできなくても仕方がなく、天国へいけないわけではない。体力と資力のあるものだけが実行すればよいとされている。（カーバ神殿での巡礼の写真をみるとびっくりするが、日本でも明治神宮の初詣には毎年百万人を越える人が参拝している。）

## 知って得する豆知識 イスラーム編

### ムスリムの生活（衣食住）

#### 衣

女性のチャドル（髪の毛や身体のラインが見えない服装）（地域差あり。男は欲望に勝てないという認識から見れば、女性保護とも考えられる。現地の人それがよいと思っているのならば、フェミニズムも押しつけになることがある。男性のいやらしい視線を気にしなくていいので楽だという意見もある。近年ではファッションとして伝統的な服やスカーフを着用する女性もいる。）

私たちが会社へ行くときはスーツ？ ああ格好は○○○○だ！  
外見で人を決め付けていいのかな？ 民族衣装は素敵でしょう。

（世界中、みんなジーンズにTシャツだったらどうする？また、伝統的な民族衣装は、ふつうその土地で暮らすのに大変合理的である。いわゆる砂漠では、熱風はドライヤーのようであり、車のボンネット

トで目玉焼きが焼ける。直射日光や強い風、砂ほこりをさえぎったりする。乾燥地帯では、暑ければ気化熱で涼しく、寒ければ身体をおおっているのが暖かい。ただし、日本で着たら暑くて仕方がない。高温多湿の日本でネクタイを締めるのは拷問に等しい。和服を見直してもいいのでは？

#### 食

・家族と一緒に食べるのが基本、外食は少ない。

・「豚肉」を食べない。（そういえば仏教も肉食はだめだったような。世間には肉食主義の人もいるし、無理にすすめるのは失礼だし迷惑だろう。その他、ユダヤ教なども、食事についての規則、規制がある。）

・「飲酒」禁止。（実状は時代や地域によって異なる。）  
ノミニケーションができない？ ムスリムのパーティーはおしゃべりが基本です。

イッキ飲みもない楽しいパーティーです。（一世紀の詩人のオマルハイヤームなどは『ルバイヤート』で酒を讃えている。もちろん批判もされているが、有名な『千夜一夜物語』などでも酒を飲む場面が多い。）

#### 住

・中庭中心の生活空間 ・いりくんだ街並み

（プライバシー保護が優先。無秩序で迷路のようだとされるが、モスク（礼拝所）やスーク（市場）を中心とした、機能性を重視した都市計画が行われていた。昔は一つの街（都市）に金持ちからお金のない人まで、またいろいろな宗教の人が住んでおり、住民としての一体感があつたらしい。しかし、最近では金持ちは新市街に住

み、階層分化が顕在化している。)

## イスラームのホント・ウソ

・「イスラーム原理主義」ってなに？こわそう。

(簡単に言えば、初期イスラームの時代を模範とすること。原典主義。社会に不正がはびこっているのは、イスラームがしっかりと行われていないからだと考える人々に、広く支持される。過激派と同意語ではない。血みどろのキリスト教世界の宗教改革よりはましか？無理矢理押しつけようとする人は確かに問題だが、パレスチナのように虐げられていて他に手段のないと考える人がでるような社会では、たしかに大きな力を持つだろう。最近では過激派と区別するために、「イスラーム復興」「イスラーム主義」などと呼ばれる。

イスラームはそれぞれの地域での伝統的な信仰体系と習合し、独特の儀礼や慣習を生み出してきた。事業の成功、病氣治し、子授けなどの「現世利益」を求めて、聖者やその廟に参詣したりすることなどがみられる。正統的なイスラームの教義の枠に入らない部分もあるが、多くのムスリム民衆の生活の中できわめて大きな役割を果たしている。日本の仏教と似ていますね。鎌倉仏教とスーフィズムは似ていると思いませんか？

ただし、そのような行・慣行をイスラームの「異端」とみなし、非難・攻撃する傾向が近年高まってきている。いわゆるイスラーム原理主義や復興運動の潮流は、概してこれらの民間信仰に否定的な態度をとっている。東南アジアのイスラームは服装や礼拝に関してあまり厳格ではなかったが、近年うるさくなってきているようである。)

・異教徒にはジハード(聖戦)をしかけるんだって？

(宗教が違くと、分かり合えないのか？殺しあつてしまふのか？そんなことはないはずだ！ジハードは一般には聖戦と訳されるが、歴史的には征服しても他宗教を認め、自治を許してきた。キリスト教徒の十字軍よりは寛容だったといえる。宣教のためのジハードは異教徒が改宗するか、ジズヤの支払いに同意すれば終結した。

近現代では支配者に対する抵抗運動の文脈で使われることが多いようだ。植民地時代には各地で侵略者へ激しいジハード運動が展開された。抑圧する側には怖い言葉である。)

・四人も奥さんが持てるって、ホント？

(戦争による死者が多かった預言者ムハンマドの時代、戦災による未亡人や孤児を救済する意味もあった。ふつうは一夫一婦。また、平等に扱えなければだめだといわれる。)

※「シャリーア」(イスラーム法)

※「契約」が大切

(イスラーム世界は法の社会で、膨大な法とその解釈がある。裁判も多く行われ、しっかりとしたウラマー(法学者)は支配者の思い通りにさせなかった。契約書を残す。利子を取らない。当たり前のことだが、殺人・姦淫・アヘンなどの禁止。など)

・結婚前に慰謝料を決めるってホント？永遠の愛は誓わないの？

(すべてはインシャッラー(神の御心のままに)である。だから、おろかな人間は、過ちを犯したときのため、あるいは、円滑な人間関係のために、なるべく契約をする。実際払われるかは場合によるが、結婚前に離婚時に男性が女性に払う慰謝料を決める。「愛するから結婚」か「結婚は愛を育むもの」か。人の心は難しい。)

## 発展問題

外見やイメージだけで「あなたの友達をよくわからない。こわい。」といわれたら、君たちはどうするでしょうか。「実はこんな人なんだ。」と説明したいものです。そこで次のような状況を考えて下さい。「イスラーム教徒はよくわからない。こわい。」と、あなたが友達に言われたとします。そこで、誤解や偏見を解消するために、少しでも多く「イスラーム教徒の生活や考え方」について、日本人との共通点や相違点を考慮しながら答えて下さい。

### 三 このプリントのねらい

伝える内容が膨大な社会科にとって、いつでも忘れたくないのは、「世界史」をとおして、何を教えるのか、何を伝えたいのかということ。「地理」では？「日本史」では？「現代社会」「倫理・政経」では？意味がわからなくても、あとでその知識を利用できるから詰め込むというのも、一つの答えでしょう。このプリントの場合は以下のようなものです。

・ ー まだ日本ではなじみのうすいイスラームに対する基本的な知識を得る。

・ ムスリム（イスラーム教徒）が大切に思っていること、考えていることを知る。

・ 単なる興味本位ではなく、文化的背景や生活様式の合理性を知り、自分たちの生活や行動様式にひきつけて考え、異文化尊重の意識を育てる。

また、生徒にに応じて「興味・関心を持つ、覚える、理解する、考える」のうち、どれかひとつでもよいと考えています。もちろんす

べてできればいいのですが、この子は分かってなさそうだけれど、関心をもてたからいいとか、感情的な言動をしているが考えているからいい、あるいはテストができるだけでも知らないよりはいい、というように積極的に評価したいものです。

### 四 イメージや親近感をわかせる

授業スタイルに左右されますが、ご自分のイメージにあっているか、アラブ人の服装で登場ということもよろしいかと思えます。アラビア語で挨拶ができれば、さらに効果的と思われれます。風呂敷やスカーフで代用することもできます。ちよつとついていけないという方は、黒板での図解や写真、生徒に着せるといふ方法もあります。

その際のポイントは、「こんな格好をしている人がいるんだよ」と興味・関心を引き出すだけでなく、「なぜこういう格好をするのだろう」というところまで話を持っていくことです。その服の持つ合理性を説明したいところです。乾燥地帯では便利だということ。なぜ乾燥地帯では便利なのか。それは砂漠の暑さ、日光、乾燥の対策になっていることを伝えます。

暑さを分かりやすく説明するには、素手で車のドアを開けられない、ボンネットで目玉焼きができるということや、「人間の体温は何度だろう」と発問し、気温が四〇度を超えるということは、体温より高いことだと言つてイメージをわかせます。身近なものとの比較がいいので、砂漠に吹く熱風はドライヤーと同じなので、クーラーがきかないからといって車の窓を開けてはいけないなどと説明します。

強烈な日差しをささざるために、くまなく肌をおおうという解釈

もできません。

乾燥しているところで涼しく過ごすには、気化熱の話をします。冷蔵庫のないところで冷えたスイカを食べるには、風通しのいいところで薄切りにしてひらひらするだけ、素焼きの壺で染み出た水が蒸発して中の水を冷やすといった話をします。さらに生徒によってクーラーの原理を説明しても良いでしょう。そして、帯のないゆつたりとした服は風通しがよく、気化熱で汗が蒸発して涼しいことを理解させます。

さて、その他にもイメージをわかせるために、視覚や聴覚に訴えるために、図版やテープ、ビデオも良いのですが、一番手っ取り早く生徒に印象を与える教師の生身、を使ってみるのも良いでしょう。たとえば、イスラームの信仰告白をアラビア語で発音してみます。のりがいい生徒だと、一緒に唱えてくれるかもしれません。ただ、その際に宗教教育と勘違いされても私は知りません。

生徒に親近感を持たせ、自分にひきつけて考えさせるには、自分たちの行動様式との比較をさせる方法があります。内面においては異なるものだとすることを忘れてはいけません。自分たちにはない行動を「変だ」「おかしい」「変わっている」「危険だ」と思いがちな生徒たちに、外面を見ただけならば日本の行動様式でも同じようなものがあるということを感じさせます。例えば、「礼拝」と「毎朝の線香」、「メッカ巡礼」と「初詣」、「チャドル」と「スーツ」「制服」の比較などが考えられます。繰り返しますが、同じようなものだとということではなく、外見だけを見たらかわらないのではないかという問題提起です。自分たちは何気なくやっていることでも、外部の人間から見たらどのように見えるかということですが、

生徒に一日五回の礼拝について感想を述べてもらってもいいですし、反応がない場合には次のように解説します。「一日五回も礼拝をするのは大変だ。非効率だ。なんて熱心なのだろう。という人がいるかもしれない。しかし、慣習（あたりまえのこと）になっていけば、気にならないだろう。ご飯を食べるときに考えないでいただきますと言わないかい？また、テレビや写真では熱心な人たちを写すけれど、そうでない人もいる。地域によっては、生活リズムに合わせてお祈りの時間を変更したり回数減らしているところもあるのだよ。ムスリムにもいろいろな人たちがいるのだよ。」

「メッカ巡礼」では写真を見せて、「すごい人だね。でも、日本でも宗教的な日にもすごい人数が集まることがあるのだよ。いつだと思おう？そうだ。元旦の初詣だ。明治神宮には百万人が参詣するそうだ。初詣をしている人たちがどう考えているか分からないけれど、外部の人から見れば日本人はなんて信仰心が篤いのかと思おうよ。ついでに言えば、一週間のうちにクリスマスでキリスト教、大晦日の除夜の鐘で仏教、元旦の初詣で神道と、三つの宗教の行事に参加しているわけだ。」などと解説してみます。もちろんムスリムは宗教心から巡礼に行くわけですが、外面だけを見て中身を考えないことへの警告としたいものです。

女性の服装に関しては、「チャドル」の写真を見せて、「もし君が明日からこの格好をしなくてはいけなくなったらどう思う？」と女子生徒に聞きます。男子生徒に聞いても仕方ありません。あくまでも女性自身がどう考えるか。女性の意見に対して男性はどう考えるのかという設定にしたいものです。なかには鋭く「明日からだったら嫌だけれど、生まれたときからその格好だったら嫌だと思わな

いかも。」という意見を言う生徒もいます。

その他、「飲酒の禁止」や「豚肉を食べない」、「四人まで妻をもてる」、「女性の服装」などといったことに関しても、感想を聞きま  
す。それらのもつ合理的な部分を考え、また、自分たちと違うこと  
を、多様な文化のひとつとして考え、理解を深めることができれ  
ばよいと思います。たとえば、酒については飲酒の害がひどかったこ  
とや、四人まで妻を持つることについては未亡人や孤児の救済策で  
もあつた面を説明します。

社会によってさまざまな規範があることを考えさせ、その土地の  
人々がそれらの規範について、どのように考えているかが大切では  
ないか、ということを考えさせるところまでいきたいものです。こ  
のことは、大切だけれども最も難しいと思います。「あいつらは遅  
れているから、俺たちが教えてやろう。変えてやろう。」などと  
いう過去ヨーロッパ列強が植民地政策を正当化したユーロセントリス  
ム（自民族中心主義）の発想は持ちたくないものです。

## 五 留意点

① 導入のときに、生徒の興味・関心を引き出せるか。引き出したあ  
とに、適切な異文化理解への生徒との対話ができたか。

② 生徒への問いかけを重視し、生徒との応答に際しては、どんな質  
問でも真摯な態度で答える。

③ 自分たちの文化と比較して、類似性にも目を向け、けつして特殊  
な面だけを強調しすぎない。

④ 自分たちと異なる点を、文化の多様性として捉えられるように目  
を向けさせることができたか。

⑤ イスラームへの肯定的な理解をとおし、「文明の衝突」ではなく  
「文明の対話」をめざす姿勢をつくるきっかけとしたい。そのた  
めに、教えることよりも、考えさせる態度を養わせたい。

⑥ 一般的に生徒は第三世界に対して良いイメージを持つていないこ  
とが多いので、一回の授業でイメージが変わることを期待すべ  
きではない。関心を引き出せても、偏見を助長することのないよ  
うに留意する。

## 六 おわりに

「イスラーム世界の問題点については取り扱わないのか。」とい  
う指摘が会場でありましたが、貧富の差の拡大や権力の独占など  
政治的・経済的な問題は、イスラーム原理主義（現在はこの言葉の持  
つ過激で狂信的といった否定的な意味合いが、多様な方向性を持つ  
現状とは異なることから、イスラーム復興、イスラーム主義などと  
いう言葉が使用されています）の解説のときなどに話します。しか  
し、「イスラームの持つ女性蔑視的な側面は取り扱わないのか。」と  
いった指摘には、文化的な問題が絡むときには現地の人々がどの  
ように考えているのか、それに対して私たちはどのように関わって  
いくのか、というスタンスで授業を展開するべきだと考えています。  
現地の人々が因習を振り払って女性の権利を高めたいと望み、男女  
平等が良いと自分が考えていればその人たちに協力すればよいでし  
ょう。「進んでいる」「遅れている」「正しい」「正しくない」ではなく、  
自分がどうしたいのかということなのです。政治的な強者につくの  
か、弱者につくのか。経済的な弱者に肩入れするのか、やめるのか。  
社会的地位の低い人々を助けようとするのか、無視するのか。取る

べきスタンスはいろいろありますが、相手もそれを望んでいるのかどうか、対話をする必要があるでしょう。そして、自分が関わることに對する反対勢力もあるでしょうし、現地社会にどのような影響が出るのかも考えるべきでしょう。

さらに難しい問題は、環境問題や地球的規模の人口爆発をどうくい止めるかといったとき、現地の人々で協力しようという人がいなかった場合です。先進国と発展途上国の責任の押し付け合いは、いつでも見られます。それこそ「自分が正しい。相手に分からせなくてはならない」と一方的になるのではなく、対話が必要でしょう。

「異文化を比較するときに、違いを強調することで多様性を際立たせ、それを認めさせる方法をとっている。」というご意見もありました。ムスリムのアッラーに対する感覚は私たちからは理解できないというのも、確かにそのとおりだと思います。安易に人間はみな同じだなどとは言えません。それでも、相手の立場を理解しようとつとめ、ともに生きるためになんとか折り合いをつけようとする姿勢を、生徒に示しておきたいと考えています。その点で、プリントの最後の「発展問題」はテストにも出すのですが、知識も問いながら、自分自身にひきつけて考えなければならぬ、いい問題だと思っています。ぜひご一考ください。

#### 〈授業で使えるような参考文献〉

○大塚和夫編『暮らしがわかるアジア読本 アラブ』

河出書房新社 一九九八

(これはひとつひとつの項目が短いので、とても使いやすい。

四二人もの著者のエッセンスが詰まっています、話のネタによい。

日々の暮らしから日本との関係まで、わかりやすくおもしろい。

地理の授業でも使える。大塚和夫の「アラブ世界へのアプローチ」を読めば、三〇分で現代アラブがわかる?! 読みたいところだけ読めばいいので便利。)

○片倉もとこ『イスラームの日常世界』 岩波新書 一九九一

(日本人とは違う考え方・行動様式の理解に役立つ。読み物としても面白い。)

○佐藤次高・鈴木董編『新書イスラームの世界史①』

都市の文明イスラーム 講談社現代新書 一九九三

(通史の概説書、とくに佐藤次高の「イスラームの世界史」への序言「第一巻プロローグ」はイスラーム全般の簡潔でわかりやすい理解が得られる。後藤明の「イスラーム国家の成立」のなかの項目も「ウラマーが世界をささえる」「ワクフが都市を機能させる」などがあり、授業でつかいやすい。このプリントでも利用させてもらっています。)

○山内昌之・大塚和夫編『イスラームを学ぶ人のために』

世界思想社 一九九三

(わかりやすい専門的な入門書。とくに「ムスリム世界の多様性―地域的展開」のなかの各章は具体的にイメージがわいて面白い。基本的には読みたいところだけ読めばOK。)

○歴史教育者協議会編『100問100答・世界の歴史2』

中東・アフリカ 河出書房新社 一九九二

(解説はやや専門的だが「なぜ奴隷が支配者になれたのか」といった項目が多数あり、生徒の関心を引くのに利用できる項目がある。生徒にはかみくだいて伝えるか、資料としてコピーするのが妥当。)